

## 第15回甲府市中心市街地活性化協議会議事録

1. 開催日時 平成25年6月28日（金） 午後1時～
2. 開催場所 甲府商工会議所 401会議室
3. 出席者 10名（本人出席9名、代理出席1名、欠席8名）
4. 事務局出席 LLCまちづくり甲府 企画担当 渡井 賢一
5. 議 事 1) 中心市街地活性化基本計画の変更について  
2) 新たな中心市街地活性化基本計画の策定について

### 6. 議事概要

開会の後、望月会長から、甲府銀座ビルの件など、連日中心街の活性化に関連する動きが新聞紙面に出ている。今回も有意義で活発な議論をお願いしたい旨の挨拶があった。続いて、望月会長が山本委員（副市長）に今回の開催の説明を求めた。

山本委員から、甲府銀座ビル再生に関する事業は、優良建築物等整備事業補助金を活用して進めていく予定であるが、同要綱によると、甲府市中心街活性化基本計画に位置付けられているか位置づけられる予定の事業でなければならないと定められているため、この制度を進めるためには、その要綱を踏まえていただき、甲府市中心街活性化基本計画に位置付けられる必要がある。加えて、中心商店街の関係では、ストリート再生チームが5月29日に創設された他、新しい空き店舗対策事業や小規模グループの自主的な取り組みを支援する事業を展開していくこととなっている。現行の甲府市中心街活性化基本計画に新たに事業を追加していただくなかで、国に対して変更申請をさせていただきたい。そこで、皆様の意見を申し上げますという旨の発言があった。

続いて、望月会長が委員の入替えについて、議事に入る前に事務局に説明を求めた。

#### ○ 一部委員の入替えの承認について

資料1の委員名簿により事務局から説明。委員・オブザーバー合計20名のうち、4名の交替につき説明した。委員については、各組織の人事異動に伴い、(株)山梨中央銀行は功刀氏から加藤氏に、合同会社まちづくり甲府は深沢から佐藤に入替った。オブザーバーについては、人事異動に伴い甲府警察署交通課の渡辺課長から伊藤課長に、山梨県商業振興金融課の赤池課長から立川課長に入替った旨を説明した。4名の入替えについて承認を受けたその後、新任の佐藤委員とオブザーバーの立川課長から挨拶を受けた。

続いて、望月会長が議長に就任し、議事に入った。

議長から議題1)中心市街地活性化基本計画の変更につき市に対して説明を求めた。市のまちづくり課深沢課長が現行の甲府市中心街活性化基本計画の経緯を先ず説明

した。同計画は平成20年11月に平成25年3月までの4年4カ月間の計画で国の認定を受け、今まで新規事業の追加等で6度の計画変更を行った。特に、昨年12月21日の会議で計画期間の1年間の延長（平成26年3月まで）の承認をいただき本年3月29日に国の認定を受けた経緯を説明した。その後、引き続き深沢課長が、配付資料に基づき変更の説明を行った。内容は、民間主体の取り組みを促進する事業、甲府銀座ビル再整備事業、甲府駅南口周辺整備事業の3つ。

議長は、この説明を受けて、各委員に意見・質問を求めたところ、次のとおり意見・質問が出され、以下の通り回答があった。

質問①：ストリート再生チームに若い人を入れたらどうか。

回答①：比較的若い人もメンバーに入っており、議論も活発である。

意見①：私は若者に期待している。中心街活性化には若者、バカ者、外物がいないと駄目であると思っている。

質問②：タウンレビューチームは、答申が終わったが今後も続くのか。

回答②：答申が終わって終わりではない。新たなメンバーでテーマを設定して立ち上げる予定である。

意見②：新たなメンバーには若者、バカ者、外物を入れていただきたい。外物と言え、県内進出企業の支店長は地域に貢献したい気持ちが強いのので、是非選定してもらいたい。バカ者は、事務局が担うべきである。バカ者とは、集中して一生懸命頑張る人のことであるが、若者、バカ者、外物が揃わなければ「まちおこし」はできないと考えている。

質問③：まちづくり甲府に期待する項目にある、官民コンソーシアムとは、ストリート再生チームのことか。

回答③：この時点では、ストリート再生チームのことを想定はしていないと考えられる。まちづくり甲府が中心となり、ストリート再生チーム以上の組織を立ち上げることを期待している。まちづくり甲府は、イベントに軸足を置くのではなく、収益を求める事業を実施していくべきであるとの事である。

質問④：答申の時期には無かったが、官民コンソーシアムは、ストリート再生チームで結実しているのか。

回答④：結実しているかどうかはわからないが、ストリート再生チームの事務局としてチームの組織・機能の充実・強化をすることは良いことである。

意見③：甲府銀座ビルについて、長年使われていないビルが市の中心にあることは決定的なマイナス要因である。何とかしないと、中心市街地活性化はどうしようもなくなる。このビルは、複雑な事情が絡み合い、このまま誰も手をつけないと活性化は不可能となる。甲府銀座ビル再生事業に市が力を入れており、このチャンスを逃すと永遠に活性化は不可能になる。この問題を解決できるのは民間では無理で、補助金を活用できる甲府市のみである。甲府銀座ビル再生は、中心街活性化のメインであり、この機会を逃したら中心街活性化は無いと思っている。

議長が他に意見等を求めたところ特に無かったため、議題1) 中心市街地活性化基本計画の変更について、承認を受けた。

続いて、議長から議題2) 新たな中心市街地活性化基本計画の策定について市に対して説明を求めた。市のまちづくり課深沢課長が、配付資料に基づき概要の報告を行った。次期中心市街地活性化基本計画の策定に当たり、策定委員会を中心として、タウンレビューチームとの連携を図りつつ、当委員会に対して御意見をいただき新たな計画の策定を行いたい旨の発言があった。

質問①：この配付資料は、タウンレビューチームの答申に基づき作成された資料なのか。

回答①：資料2-1は、その通りである。

質問②：伊藤座長以外のタウンレビューチームのメンバーはどのような方がいるのか。

回答②：商店街の方も参加しており、具体名を挙げると、深沢宝飾の深沢氏や朝日町の樋口氏もメンバーに入っている。

意見①：こういった計画は、言うだけでは駄目で、やらないと駄目である。「DO」が難しく、それを誰がやるのかが明確になっていないと駄目である。

意見②：タウンレビューチームのメンバーには、山梨大学の佐々木教授といった有識者やスーパーやまとの小林社長、岡島の有井副社長等がおり、バランスがとれた人選である。

話は戻るが、誰がやるのかが大事である。今日の配付資料を事務局が最初に持って来た時には、2ページ目には計画と会議の名前しか載っていなかった。誰がやるのか、「DO」をするのかが抜けていた。そこで、商工会議所と商店街連盟を入れたが、それだけでは不十分で甲府市が中心に立たないと駄目である。民間のやる気を引き出すことを含めて市がやっていかなければならない。ストリート再生チームも民間の方が行動の中心であり、民間の方がやる気になる土壌づくりの施策を市が作らなければならない。官主導でも良いから、民間の方についてきてもらうような工夫をしてもらいたい。商店街の協力を得ながら市が中心になって事業を構築しそれを踏まえた計画にしてゆきたい。

意見③：市が中心になってやってもらうことは良いことである。

意見④：答申に基づいて、事業を実施していくのは、ストリート再生チームであると考えている。例えば、駐輪対策について、ストリート再生チームのプロジェクトに入っている。チームには若い人がおり、検討を始めたところで、中心商店街の方だけでなく、商店街に来る商業者も含めて一丸となって新しいことをやろうという話でやっており、これからやっとなり動き始めるところである。

質問③：先日、山梨日日新聞の記事を見た時に、銀座街の駅の夜の活用策の話が出ていたが、内容が分かれば教えてほしい。

回答③：それは正しくストリート再生チームのことである。このプロジェクトは、大人が仕事帰りに集まる場所の一つとして銀座街の駅を想定しているが、あくまで未だ検討段階である。

意見⑤：駐車場については、大型バスを停める場所が無い。個店の魅力向上の話も重要であるが、その前に中央商店街の活性化のためには、大型バスを停める駐車場の整備が必要なので、話を進めてもらいたい。

意見⑥：甲府市から中心市街地活性化基本計画の変更について、やる気のある人の力を引き出す施策、甲府銀座ビル再生事業、甲府駅南口修景計画事業の3つに

ついて説明を受けたが、良く整理されており実施主体が明らかになっている。次期計画については、中心市街地活性化基本計画の変更と同様に深く掘り下げていただき実施主体を明確化して実効性が見える計画作りをお願いします。また、県内は甲府市を含め富士山世界文化遺産登録、県の防災新館完成等で環境変化が生じている。それらの動きを見込んだ上で、次期中活計画にテーマを盛り込んでいただきたい。

意見⑦：良い意見です。次期計画に実施主体を入れたほうが良いと考える。

意見⑧：タウンレビューチームからは、最後通告ということで、我々は恐れながらやっている。タウンレビューチームから答申をいただき、行政・商工会議所とでしっかり主導をしていただきたいと思う。

意見⑨：私は、第1期の中心街活性化基本計画の策定委員会の委員長でした。その後は、まちづくり会議を立ち上げ、その会長もしていた。景気悪化と重なったことで条件は悪かったが、甲府市中心街の惨憺たる有様を危惧しており、何とかならないのかとずっと思い続けてきた。世の中、商業者の味方をしていない。昔は良い思いをしてきた、補助金を受けてきた、今まで何をしてきたのか、未だ何かやってくれとは虫が良すぎるのでは。郊外にショッピングセンターがあり車もあるので不便ではないという意見がある一方、年寄りには車が無く、生鮮製品の買い物をするところが無い買い物難民になっているとの意見を披露する人もいる。昨年12月に経済産業省が有識者会議（前東大教授大西座長）を開催したので傍聴したが、懇談会の大西座長から中心街にお金をつぎ込む時代は終わったという発言があった。私は、これで終わったなと思った。同じく経済産業省の産業構造会議の部会の一つに中心市街地の活性化部会（全6回）があり、5回傍聴したが、委員が20名以上おり各省庁の担当者が出席していた。民間の委員から、補助金は不要ではないか、「中心市街地」を「中心街」に変更したらどうか、「歩いて暮らせる街づくり」にコンセプトを変更したらどうか等の意見が出された。また、中心市街地活性化協議会の存在感が薄く、力を発揮できていないのでリーダーシップを取るべきであるとの意見があった。まちづくり会社、タウンマネージャーの話も出た。タウンマネージャーの様な、引っ張って行く専門職の人が中心市街地活性化協議会にいる訳ではないので、同協議会のトップの意向を受けて実際に動く専門職の人を国が認め、選択し、必要ならば教育して実務に就かせる取組みが必要なのではという意見もあった。また、まちづくり会社の位置づけは非常に曖昧で、法人格はあるが法的に認められていない存在で、自主財源が無く不安定で弱い存在であるという意見もあった。この会議の結論は、経済産業省のHPに掲載されており、43ページもの文書となっている。その内容に、国がもっと中心市街地をこういう風にもっていききたい、現行の中活法は不備であったので改正したいとか、税制面はこのようにしたい等とは残念ながら書かれていない。こうあってほしい、願望が書いてあるのみで残念であった。平成18年に改正された中活法が、今後どのような形で改正されるのか、当時からは経済事情に変更があったとはいえ、環境が変わったので中心市街地をどのようにして再生していくかは大きな問題であろうと思っている。

参考までに、中活基本計画を策定した115の自治体のうち20の自治体が

第2期の計画を申請している。私の隣町の千葉市は申請を出さない。国に頼らず自分たちでやっという考えなのか、中活法の効果が薄かったからなのか知る由もないが、第2期の計画を諦めている自治体もある。甲府市には、第2期計画を申請して、第1期の足りなかった部分を補ってもらい、何としても甲府の中心の顔を作ってほしい。私が、良く話す事だが、子供・孫の高校が甲子園で優勝したとしたらどこでパレードをやりますかと質問する。ショッピングセンターでやりますか。そこでは、やりませんね。様々な意味で中心街は必要であると思っている。勿論買い物する場、憩いの場、文化教養を身につける場等で色々な要素や必要性がある。残念ながら、多くの方は中心街の存在は終わったと勝手に思い込んでいる。その様に思わせないために、語弊があるが敗者復活として頑張ってもらいたいと思う。

他に意見等を求めたところ特に無かったため、議題2) 新たな中心市街地活性化基本計画の策定についても、承認を受けた。

本日の議事が全て終了したため、事務局が閉会を宣した。